

JASE

# 現代性教育 研究ジャーナル

MONTHLY JOURNAL of SEX EDUCATION TODAY

2022年

No. 139

2022年10月15日(毎月15日)発行

日本性教育協会

THE JAPANESE  
ASSOCIATION  
FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info\_jase@faje.or.jp URL https://www.jase.faje.or.jp 発行人 石川哲也 編集人 中山博邦  
© JASE. 2022 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

第16回アジア・オセアニア性科学連合

国際会議報告…………… 1

いつきの“ヒューマン・ビーイング”<sup>⑩</sup>…………… 11

多様な性のゆくえ<sup>⑥</sup>…………… 12

今月のブックガイド…………… 13

JASEインフォメーション…………… 14

## ■第16回アジア・オセアニア性科学連合国際会議報告<sup>①</sup>

(The 16th Congress of Asia-Oceania Federation for Sexology)

# 性のウェルビーイングの促進 様々な視点での対話

(Promoting Sexual Wellbeing—Conversations on Different Perspectives)

明治大学文学部心理社会学科現代社会学専攻教授 平山 満紀

### はじめに

2022年8月19日から21日まで、マレーシアのケランタン州、タイとの国境付近の街コタバルにて、アジアオセアニア性科学連合(AOFS)の第16回大会が、オンラインと対面の併用で開かれた。コロナ禍の続く中、会場である国立大学USM(マレーシア科学大学)コタバル校への海外からの参加者は少なく、日本からは私と私が指導している留学生Mengzhen Lim(登録上はマレーシア国内からの参加)のみが現地参加した。Mengzhenはこのコタバルで生まれ育った中国系マレーシア人であり、この街やマレーシア社会について、私にふんだんに情報提供をしてくれた。以下の記述にも、それを活かさせていただいている。

本大会では、報告者は、オンライン参加か対面参加かに関わらず、発表資料に口頭発表の音声か映像を録音・録画したものを、あらかじめ大会事務局に提出す

るように求められていた。参加者は大会ウェブサイトから、それをすべて視聴できることになっており、非常に便利な仕組みのはずだった。ところが、現実には何らかの技術的なミスがあったようで、発表資料のオンラインでの視聴は、私の知る限りどの参加者もできなかった。このことに私は大会終了後に気づき、大会事務局に複数回問い合わせたのだが、返事は得られなかった。他の日本人参加者達も同様に言っている。そこで残念ながら本レポートでは、私が現地で参加した報告や、体験したできごとだけに限りご報告する。このことをまずご了承くださいと思う。

本大会の社会的背景を理解していただくために、はじめにマレーシア社会の基本情報を、簡単にお示ししたい。マレーシアは、人口の7割がマレー系のイスラム教徒、2割強が中国系、その他インド系などがある多民族国家だが、マレー系優遇政策が続いている。公務員もマレー系が大多数であるし、国立大学の教員もマレー系がほとんどで、学生もマレー系が優先的に入

学できる。国立大学ではイスラム教に背く研究・教育はまず不可能だ。一方私立大学には、少数派の中国系などの人たちが集まるが、セクシュアリティ研究、社会学、政治学、歴史学等の分野は、多数派のムスリムを批判する内容になりかねず、基盤の弱い私学にとってはリスクが高いため、研究・教育はほとんどされていない。本学会にマレーシア国内から参加した報告者45人の所属をみると、私が調べた範囲では、私立大学への所属はわずか1名で、他の44名は国立大学に所属していた。開催地コタバルは、特にマレー系住民の割合が高い街である。古くは栄えたが、近年は経済発展が遅れ、宗教的保守化が進んでいる。毎日夜明け前に、一日の最初の礼拝を呼び掛ける大音量の歌声で、非ムスリムも含め起こされる。大会会場の2階は礼拝室になっていた。本大会はこのような背景をもち、非常に宗教色が強かった。

開会式では、コーランの一節が数分間唱えられた。コーランを唱えてから発表に入る人もいた。ちなみに大会実行委員会の主な役職も、国内からの発表者も女性が多数で、会場はヒジャブと長い服で全身を覆った女性達でいっぱいだった。マレーシアでは、性の問題を扱う領域は「家庭医学」が中心で、それは、男性医の多い外科などとは異なり、女性医の多い領域だと、何人もの女性参加者から聞いた。

## 1日目 8月19日

1日目、開会式に先立つWAS会長Dr.Elna Rudolphの基調講演は、WASがこれまで推進してきた理念である Sexual Health, Sexual Rights, Sexual Pleasure それぞれの意義と、新たに Sexual Justice を推進しようとしていること、これまでの経過、なぜこの新しい理念が必要なのかをめぐり、大きな見取り図を示すものだった。

それに続く開会式は、コーランの朗読、歓迎の言葉、花束贈呈、国家と大学歌の斉唱など儀礼的な性質が強いように感じた。その後アトラクションとして、民族衣装を着た男の子たちの武術系ダンスと歌が披露された。イスラム教では公の場で踊ることが許されるのは、男性や男の子だけなので、イスラム化以前にはあったマレー人の女性の民族舞踊は、伝承が途絶えたのだろうと、私は推測した。(写真1)



写真1 開会式での男の子たちによる民族舞踊と歌

### 「男性とセクシュアリティ」セッション

1日目午前中の「男性とセクシュアリティ」セッションでは、三人の発表者による三様の興味深い報告がなされた。UKM (マレーシア国民大学) の Dr. Zulkifli の「男性の性の問題 アジアの視点」は、アジア、特にマレーシアの男性の性の問題を、調査や臨床経験から論じた。マレーシア男性の ED の経験率を調査すると、アジアの中で最低であるが、マレーシア男性は ED に限らず、健康上の問題を抱えること自体を、支配力の喪失ととらえて隠す傾向があり、ED についてもそうではないかと推測した。また彼らは ED への対処を、医師よりも伝統薬の治療師に頼るという。ちなみにマレーシアは多様な植物を育む熱帯雨林を有し、豊かな薬草文化の伝統をもつ。Zulkifli は伝統薬も十分活用する価値があると見て、しかしもっと治験が必要だと論じ、同時に男性たちと医師たち双方が、性機能不全の問題をタブー視せず、しっかり向き合うべきだと論じた。

USM ペナン校のソーシャルワーク専攻の院生 Wan Azuan の「両性愛既婚男性への質的調査」は、同性愛でありながら、同性愛を許さないイスラム教の圧力のために異性婚をし、その上で SNS を通じた同性愛行為を続けている、ペナンの7人のマレー系男性へのインタビューの分析だった。Azuan は分析結果として7人の共通点を見出しており、共通点だけでなく相違点やタイプの違いを分析することも重要だろうと私は考えたものの、それは大きな欠点とはいえないだろう。マレー系研究者がマレー系同性愛実践者に対し、彼らの性行動を矯正しようとせずに許容しながら研究している態度は、本学会では私が見た限り本発表のみだった。海外の影響を受けやすいペナンの地域性も影

響しているだろう。Azuanのような研究態度がマレーシアの大学や学会でどれだけ受け入れられていくか、注意して見ていたい。

AOFS オーストラリア・シドニー大学の、性の心理療法を専門とする Dr. Christopher Fox は「男性の性機能障害の対処への多領域的アプローチ」で、25年間の臨床と教育経験に基づく、包括的な内容を熟練した口調で語った。性機能障害は ED でも射精障害でも、薬学的治療と心理学的セラピーを組み合わせるのがベストの治療法だという。性機能に影響を与える要素の生物・心理・社会モデルの提示や、性や親密性の問題の解決に効果があると考えられている EX-PLIS-SIT というセラピーの手法の説明もおこなった。

この3人が報告したセッションと同時間帯には、「女性とセクシュアリティ」および「性の公正 Sexual Justice に関するワークショップ」の二つのセッションもなされ、早乙女智子氏も報告していた。

### ランチトーク「性の健康における認知行動療法」

1日目昼休みのランチトークは、WCCBT（認知行動療法の世界組織）の Dr. Firdaus Mukhtar による「性の健康における認知行動療法」だった。専門論文も一般向けの本も多く著している、認知行動療法のマレーシアでの第一人者である。

Mukhtar の発想は多くのムスリムの研究者と同様、イスラム教の教えを、絶対の枠組みとみなしていた。講演の中心概念である「性の健康」に関していうと、彼女はその例として「結婚してセックスをする」を挙げ、「性の不健康」の例としては、「未婚でセックスをして妊娠してしまう」と「婚外のセックスをして STI に感染してしまう」の二つを挙げた。未婚者が確実な避妊手段を手にしたたり、未婚で出産しても安心して育児ができたり、婚外での STI を防いだりするための、さまざまな社会的努力は全く考慮しないまま、婚外の性を不健康だとみなすのだった。また「不適切な性」の原因として、知識不足やアルコール摂取と並んで、ホモセクシュアルを挙げたのである。

彼女は、イスラム教で善行とされる夫婦の性に生じる身心の問題を、詳細に解説し、性の健康を増進させる呼吸法や食事などの包括的な方法を紹介した。私にとっては、根本的な「性の健康」概念の内容においてすら、西洋とマレーシアでは大きな相違があることに

驚かされる発表だった。

### 「性生活に対する日本人の見方」セッション

1日目午後前半の「性生活に対する日本人の見方」は、日本からの報告者によるセッションで2つのテーマからなっていた。第1テーマとして、大阪公立大学・AOFS 日本の東優子氏がモデレータとなり、「日本における包括的性教育」セッションの3人の報告がなされた。

まず、性の健康イニシアチブの柳田正芳氏の「2000年代初頭以降の日本における性教育の過去と未来」は、ご自身の活動歴や経験とリンクさせながら、性教育上の出来事や日本社会の性教育の捉え方の変化を活写した。2010年代後半には SNS が発達し、個人のアクティビストが多数登場し、10代20代の若者が性教育活動に加わるべきと考えられるようになったなど、具体的な変化をわかりやすく語った。

続いて埼玉医科大学の高橋幸子氏の「日本における包括的性教育 進歩と課題」は、日本の性教育の約30年間の歴史を、旧統一教会などの影響下での性教育バッシング、国の包括的性教育への取り組みの遅さなど、特に国家的政策の面から論じた。ご自身も加わった、2020年代の厚労省科研班監修による性教育教材『まるっとまなブック』作成にも触れて、一定の進歩はあるとしながらも、ジェンダーギャップが大きな困難だと述べた。

3番目の東海大学の小貫大輔氏は、包括的性教育の推進のための、ユニークなワークショップの実践について報告した。8つのキーコンセプトという多面性を人々が理解し、各話題の点をつなげて全体図を見出すためのワークショップだが、高校生、大学生、親や教師たちが3か月かけて、8つのキーコンセプトを8本の地下鉄で示し、キーワードを駅名にした「路線図」の作成をするという内容だ。街の中心には皇居ならぬ「幸せの広場」があり、街の地域は SDGs にも関連付けられ、その創造性の高さには驚かされた。

質疑応答は活発になされ、オーストラリアからの参加者からの、「性行動の非活発化は自分の国でも起きている。日本ではどのような原因か」という質問に柳田氏は、若者の貧困化と、SNS 上でネガティブな反応を受けるのを恐れることを挙げた。性行動の世界的な非活発化は、本大会では大きな話題とはならなかつ

たが、今後は性の健康を考える上で大きな問題とされるのではないかと私は考えている。

第2テーマとして、AOFS日本の大川玲子氏がモデレータとなる「私の身体、私の選択」が続いた。

まず大川氏が「性暴力およびジェンダーに基づく暴力の根絶」と題し、日本での近年の状況を報告した。2011年に内閣府が各都道府県に性暴力被害者のワンストップセンターを作るとの指示し、2018年までに49のセンターが作られたが、法的、財政的基盤がないことを説明し、氏の携わる千葉のセンターでの相談件数や被害者の属性、センターは性暴力被害者への迅速な支援の提供とともに、よりよい支援システムや法律の制定を求めているという目的も述べた。

続いて、WAS日本の早乙女智子氏が「日本における人工妊娠中絶」において、日本の妊娠中絶の現状、中絶ピルが今年中に認可される予定であることや、外科的暴力の廃絶に関する取り組みを紹介した。

最後に東優子氏は「多様な SOGIESC の包摂のモニタリングと応援」で、「日本は LGBTQ+ にフレンドリーか」という問いを示し、トランスジェンダーなどが一定の範囲で許容されていた歴史があることや、2000年代以降、戸籍上の性別変更が可能になり、女子大学がトランス女性の入学に門戸を開き、多くの自治体がパートナーシップ制度を導入するなど変化も起きているが、同性婚の法制化や SOGI に基づく差別の禁止法の策定などの国家レベルの取り組みが遅れていると総括した。

1日目午後前半には、このほか「インドにおける性の問題」「性教育」の2つのセッションがおこなわれた。

### 「性とCOVID-19」セッション

続く1日目午後後半の、「性と COVID-19」セッション。1人目の IIUM (国際イスラム大学マレーシア) で家庭医学を教える Dr. Aida Jamani は、「COVID-19 パンデミック期間におけるセクシュアリティの概観」で、パンデミックの開始以降、各国で行われてきた調査研究を幅広く収集して総覧した。このようなレビュー研究は、マレーシアの女性研究者の報告には比較的多いような印象を受けた。

続いて私が、Alice Pacher と共同研究として 2020年と 2021年に日本で行った「コロナと性・親密性」の調査のうち、パートナーがいる人の結果と分析を報

告した。日本ではコロナ離婚や望まない妊娠の増加など、否定的な話題がメディアには多く現れたが、現実にはカップル関係が改善した人が悪化した人より多く、性生活が改善した人は悪化した人より多かったことなどが、その内容である。

私への質問は、報告の中で、パンデミックの開始以降のある時期に、女性達の自殺の増加がみられると述べたことに対し、「その現象は、ハラキリと関係があるのか」という予想外のものだった。ハラキリは主に前近代の武士階級の特に男性の習慣であり、近代以降は非常に限られていること、日本では一般に男性の自殺率が女性より高いが、コロナ禍で女性の方が自殺率の上昇が大きいこと、コロナ禍で女性の貧困化が進んだことや生活苦の具体例などを答えた。

午後後半にはこのほか、「若者と性」と「性的アイデンティティに関する問題」のセッションが行われた。

その夜は、グランドレイホテルでディナーパーティが開かれた。アルコール無しということ、マレーシアからの参加者は男女でテーブルが分かれていること、アトラクションで登場するのは男性だけだということなどが特徴だった。ムスリム女性たちはパーティ用のヒジャブ、バジュクロンに着替えて集まり、衣装への関心はとても高いようだった。私にもヒジャブの美しいドレープの入れ方や、ヒジャブとバジュクロンの色合わせのコツ、染織の種類などを、楽しげに口々に教えてくれた。

## 2日目 8月20日

2日目の朝は Plenary 2 として、本大会委員長で USM で家庭医学を教える Dr. Rosediani Muhamad による「性機能障害の患者を理解する 私たちの役割とは」に始まった。DSM-5 と ICD-11 の双方から、男性、女性それぞれの性機能障害 (SD) の各種類を、彼女は挙げた。アジア女性は何らかの SD に陥る率は、52.1% との報告もした。その原因として、性体験の乏しさ、関係性の悪さなどの、他の社会にも共通のものに加えて、文化的要因を挙げ、ムスリムの女性差別やセックスを結婚の義務とする見方があるという研究を示した。

SD をかかえた女性たちの反応は、我慢して夫に従う、セックスを何とか断るなどいくつかのパターン

があるという。彼女は、専門家はSDの起きる背景を理解して原因を分析するのが役目とし、EX-PLISSITを使うことを勧めた。この報告では、女性のSDに重点が置かれており、本学会全体でも、女性による女性の問題の報告が多かった。ムスリム女性医師がMSDの治療に当たるのは困難だと思われ、性を扱う領域の医師が女性に偏っているためにMSDの問題は置き去りにされがちではないかと推測された。

### 「包括的性教育」セッション

2日目午前前半、「包括的性教育」セッションの第1報告は、婦人科医として働いた後、30年以上臨床家教育に携わってきたDr. Harlinaの「性教育とその課題」だった。イスラム教社会における性教育についての課題を6点にまとめて示し、彼女の葛藤や工夫の跡がうかがわれる報告だった。性の諸次元として、性科学では無視されているが、霊的(spiritual)次元もあると言い、ムスリムとしてはそれを見逃してはならないと述べた。また性への態度として、リベラルと保守の、二つの極端な立場の間に、バランスのとれた状態があると説いた。

ここでいうリベラルとは、NETFLIXで今人気のドラマ「SEX EDUCATION」なども含み、彼女はこれを、性欲の満足だけを求めて歯止めがない態度だと批判した。彼女のいうバランスのとれた状態とは、もっと価値や文化に注意を払い、年齢にふさわしい扱いをし、責任を重視したものだと言う。このように個人の自由への制限は大きい内容にはなっていた。とは言え、マレーシアでは日本と比べ、包括的性教育への専門家の取り組みが早くからなされ、文化的・宗教的コンテキストとユネスコのガイダンスのすり合わせが多く、多くの点で工夫されていることも知った。(写真2)



写真2 「包括的性教育」セッション

### 「トランスジェンダーと性」セッション

「トランスジェンダーと性」セッションの第2報告、IIUMで家庭医学などを教える傍らトランスセクシュアルを支援するNPOにも携わるDr. Samsul Dramanの「LGBTと霊性 ケアのためのホーリスティックアプローチ」は、世界的に批判も多い「Conversion therapy (出生時の身体に合わせた性自認や異性愛に矯正するセラピー)」の実践の報告だった。マレーシアではLGBTが増加していると言い、イスラム教が禁じるセクシュアリティであるため、当事者たちの悩みは深いことを示した。このような人には医学生物学アプローチだけでは不足で、イスラム教の教えが、自己価値を高め、人生に目的や満足を与えるものであると論じた。このような宗教的なConversion therapyを、自発的に採用する当事者コミュニティもあり、実際に効果も挙げていると述べた。

第3報告のUSMで精神医学を学ぶ院生Sharifahによる「マレーシアのKomunity Lで生きるとは」は、レズビアンを中心としたコミュニティのメンバー30人へのインタビューに基づく研究で、彼女たちは周囲の人たちとの葛藤、アイデンティティの葛藤、そのように自分を作った神との葛藤に苦しんでおり、宗教的なセラピーの助けで自己変革していくことで、ムスリム社会のさまざまな要素とつながりを再構築できると述べた。

質疑応答では特に外国からの参加者が、多くの疑問を投げかけた。Samsulは臨床現場の困難をより率直に語り、「実はこのセラピーはとても難しい。患者はセラピストに不信感を持ち、特にトランス女性はそうだ。医師のすることを悪く解釈しようとする。本当に難しい。彼らを治すことが目的なのではなく、メッセージを与えて再考してもらうことが目的だ」と述べた。最後にSharifahが「医学と宗教、両方のプロモートをやっているかなければならない」と結論づけ、拍手を浴びた。

私にはConversion therapyの詳しい報告に初めて接して衝撃が大きかった。専門家たちは良心的で、性的少数者に寄り添い助けになろうと努めているが、異性愛とシスジェンダー以外は認めないイスラム教の枠の中では、彼らの本心は抑圧するしかない。人権侵害は避けられない、と暗澹たる気持ちになった。2日目午前前半にはこのほか「女性の性を改善するためのセラピー的アプローチ」のセッションがあった。

## 「アジアの伝統における性」セッション

2日目午前後半「アジアの伝統における性」セッションも、たいへん興味深い報告が続いた。1人目、USMで精神医学を教え、神経科学領域の研究もしているDr. Suriatiは「FSD治療における伝統薬の役割」として、伝統薬に関する近年の論文を藩集して文献研究をした結果を報告した。エビデンスが認められない薬草も多い一方、Tribulus Terrestrisという薬草が女性のFSDに幅広い著効があることなども見出した。熱帯雨林の豊富な植生と薬草文化が、人々の性生活に大きな貢献をしようと思った。

2人目のDr. Lucky Saputraはインドネシアの精神科医で、「セクシュアリティと群島」というタイトルで、インドネシアには島や地域により非常に多様な家族制度、性役割、性の意味をもった民族がいることを、人類学的知見に基づき紹介した。群島にイスラム教が布教されたのは17世紀からで、イスラム化以降も民族文化の影響は残り、精神疾患患者の背景を知ろうと重要な知識になるという。Bugisという民族にはジェンダーが5つあることや、Javaの風習で、結婚前の花婿のもとに専門の女性が短時間同居して結婚生活を手ほどきしたことなど、多様な性の文化を語った。マレーシアにもイスラム化以前にはこのような多様な文化があったはずだが、マレーシアの学校では歴史教育はなく、マレーシアのどの博物館もイスラム化以前の時代を抹消しようとしている状況なので、イスラム教を相対化する本報告は貴重だと思った。

3人目のインドから参加した、WASメンバーのJeyaraniは、「子作りプレッシャー」で、夫婦が子どもを産むことへの、親戚からのプレッシャーや、排卵日ストレスが、インドの夫婦の性機能を大きく低下させ、性生活を阻害していると報告し、性の喜びを大事にしよう結論づけた。

4番目は小貫大輔氏と東優子氏による「『仮性包茎』の神話と、結果としての日本男性が包皮を剥く実践」で、オンラインによる報告だった。日本では、仮性包茎が早漏や発育不全の元になるという神話が、1980年代に美容整形外科のビジネスのための宣伝で強化され、泌尿器科の専門家も統一見解がなく、母親たちに乳児期から男児の包皮を剥くようにメディアが教えるなど、混乱したメッセージが交されていると、述べた。

約4000人の日本人男性への調査から、多くの男性が包皮の剥けている状態を理想のペニスと見、自分でも包皮を剥くトレーニングをし、共同浴場に入り他者から見られる時には包皮を剥く実践をしていること、包皮がかぶっている人は自分のペニスに不満の場合が多いことなどが見いだされた。男性たちの心理的発達を阻害する、仮性包茎や発育不全という言葉はなくすべきで、子育てする人への、エビデンスに基づいたペニスについての情報が必要だと論じた。この後は昼休みとなったが、仮性包茎をめぐる報告に、どうしてそんな神話を信じ込むのかわからない、驚いた、等の反応をよく聞いた。重要な着眼の研究で、日本で一般の人たちに向けて、広く発信されるのを楽しみにしている。

このほか、2日目午前後半には「女性の性機能障害」「加齢、病と性」のセッションがあった。

## ランチトークおよびPlenary3

2日目のランチトークは、UKMのDr. Zulkifliの「EDと前立腺肥大（BPH）を一分子で管理する」で、EDと前立腺肥大はメカニズムが関連しており、シアリス1日5mgは、EDの傾向があるが性交頻度が高く即効を求める男性にはよい選択となり副作用も少ないこと、前立腺肥大の人にも治療薬として使えることを述べ、一石二鳥であると結論づけていた。

Plenary3は、UKMで家庭医学を教え、子どもと若者向けのクリニックも運営するDr. Noor Azimah Muhammadによる「デジタル空間での性教育」であった。インターネットベースの性教育に関して、近年進んでいる研究から、その利点と欠点、効果を上げる方法などを紹介していた。日本でも2018年以来、TwitterとYouTubeでの性教育活動が広まっており、マレーシアでも同じ状況を共有していると思った。

## 「性の健康とデジタル世界」のセッション

2日目午後、「性の健康とデジタル世界」セッションの1人目はMengzhen Limで、現在明治大学に留学中だが、都合上UPM（マレーシアプトラ大学）所属の立場で「マレーシアの若い成人のポルノ視聴現象」を報告した。彼がマレーシアで2015年と2019年におこなった、ポルノ視聴行動に関する調査結果を比べると、視聴行動は増加し、ポルノを見ることを抑制する意図は減少した。この4年間の変化は、テクノ



写真3 「性の健康とデジタル世界」セッション

ロジーの進化とエンターテインメントの自由化によると推測されるという。(写真3)

続いてUTAR (トUNKアブドゥルラーマン大学)の院生、Tan Soon Aunが「ポルノ視聴と性的自尊心ジェンダーと宗教性の媒介的役割」を報告した。インターネット時代に利用が広がっているポルノ視聴は、性的自尊心を上げるのか、それとも性的自尊心を下げるのか。さらにジェンダーと宗教性は、ポルノ視聴と性的自尊心の関係にどう媒介的役割を果たすかを、調査をおこない結果を統計的に、特に媒介分析により明らかにした。宗教性よりもジェンダーの違いの方が、ポルノ視聴と性的自尊心への影響の違いが大きい。女性はポルノ視聴が多いと自尊心を低め、男性は逆であった。

2人の中国系研究者の、ポルノ視聴というマレーシアではハードルの高いテーマの研究報告には、活発な質疑応答がされた。私からはTanに、ポルノと一言で言うが男性向けポルノや女性向けポルノ、アニメや実写、暴力的なもの等さまざまなタイプやジャンルがあり、性的自尊心への影響も異なるのではないかと、という質問をし、今後の研究に取り入れたいと、彼は喜んでくれた。

2日目午後はこのほかに、「ジェンダーと性の暴力」



写真4 インフォーマルにタイム教寺院の見学(右端が筆者)

「乳癌と性」のセッションがあった。セッション終了後、大会委員会があったが、その後はさまざまなインフォーマルな集いもたれていた。Mengzhenは外国からの参加者たちの便宜をはかり、(自分のホームタウンで知悉しているの)送迎や案内をして大いに喜ばれていた。(写真4)

## 3日目 8月21日

3日目朝はPlenary 4、ケランタン州、福祉家庭女性発展長官Dato' Hajah Mumtaz Md Naviの講演「ケランタン州の経験から見る、家庭の健康と性的な幸福の発展」で始まった。

Hajahはまず、「アラは創造主」とテーマを掲げ、コーランをアラビア語で紹介して英語訳を示し、イスラム法における結婚や家庭、性に関する規定を詳細に解説した。その上で政策の実践を紹介するのだった。結婚の承認に関するイスラム法に基づいて、保健センターで結婚前の性病検査を義務付けて実施するなどである。結婚前のセックスは、検査していないので危険だということになる。イスラム法では、女性が家族および夫以外と身体的接触をしてはいけないが、Hajahは「性的同意は大事ではない」と断言していた。たとえ性的同意があったとしても、イスラムの神が認めないことはやはり禁じられるという意味だ。

## 「若い人たちの性を理解する」セッション

3日目午前中前半には「若い人たちの性を理解する」セッションがあり、1日目UKMのDr. Te Rohaiaは「マレーシアの親たちが、性的な問題を思春期の子と話し合うための促進要因と阻害要因」を報告した。ハイティーンの子をもつ13人の父または母にインタビューをし、促進要因と阻害要因を抽出していた。

2日目UPMの院生Syfa' Mohdの「マレーシアの若者におけるマルチシステム要因と性的リスク行動」は、初の全国大学生性行動調査で、1171人の大学生が参加したものである。この「性的リスク行動」とは、未婚者がセックスすることを意味する。調査によると大学生のセックス経験率は7.2%で、喫煙、飲酒、非組織的宗教行動、ピアプレッシャーなどが、セックス経験と有意に関係しているとわかった。ほかに「ヴァギニズムスに関するワークショップと認知行動療法」

「発達と性の問題」のセッションがあった。

### 「発達と性の問題」のセッション

3日目午前中後半、「発達と性の問題」セッションも考えさせられる報告だった。UM（マラヤ大学）の院生 John Pinto による「マレーシアにおける性的流動性——性的マイノリティグループにおける促進的環境と脱カテゴリー化効果の質的研究」は、性的指向が状況により変化する人たちに関する研究である。

最初は性的指向が定まっていたのに後に流動化する場合は、社会的な環境の影響だとするモデルも既に作られているが、マレーシアにもこれが当てはまることを、性的流動性を経験しているマレーシアの若者10人へのインタビューから明らかにした。さらに、同性愛が禁止され嫌悪されているマレーシアでは、LGBTコミュニティに加わった人が、ゲイやバイというカテゴリーを脱して、LGBTやクイアというアイデンティティを持つようになることも明らかにした。Pintoはインド人とポルトガル人の親をもつと本人から聞いたが、性的指向やアイデンティティの繊細な現実を詳細にとらえて、本大会では非常に異色だった。

2人目はUSMの院生 Sharifah の「マレー人レズビアンアイデンティティ構築」で、30人のレズビアンを自認する人たちへのインタビュー調査に基づく研究報告だった。国立大学の院生で、指導教官を含む3人との共同研究なので、よきムスリムとして研究することが求められているのだろうと想像する。インタビューの語りの中から、親に可愛がられなかった、性的虐待を受けたなどの要素を取り出し、レズビアンという間違っただけの性的指向は悪い生育環境のため起きたと論じた。

質疑応答ではオンラインで東優子氏が、レズビアンが環境で作られるというモデルは、主流のクイアスタディーズからは否定されているがどう考えるかと質問し、Sharifahは多くの外的要因が影響していることは間違いないと答えた。東氏は、この研究結果をインフォーマントに見せて、フィードバックをもらって下さいと示唆された。適切なコメントだったと思う。

閉会式はキャンセルされ、これで本大会はすべて終了した。（写真5）

ムスリムたちの報告のほとんどでは、科学よりも宗教が優先されている部分があった。本大会でも詳しく紹介された Sexual Justice の理念とイスラム教によ

る性への統制とは、根本的に対立するものである。二者の対話の難しさは、日程の進行につれ、私にはますます重く感じられた。イスラム教は夫婦の性生活を善行とする。夫婦の性に関する報告は、社会的なタブー



写真5 大会終了後

はあるけれどもこのテーマはマレーシアでは、非常に熱意をもって探求しうることを示していた。しかしこの国では、「夫婦」の枠に入れば何でも許されてしまう、という問題も深刻だ。児童婚 Child marriage が合法であり、女性の結婚可能年齢に下限はない。コロナ禍で貧困化した家庭は経済的目的で女兒を結婚させることがあり、ケランタン州はその例が多いという。

逆に、夫婦の枠から外れると厳しく断罪されている。未婚女性が妊娠すると裁判所に送られ、女性に責任があると判断されれば刑務所に送られ、18か月間収監されてそこで出産しなければならない。彼女らや子どもたちはどれだけのスティグマを負わなければならないだろうか。妊娠中絶は非合法である。未婚で妊娠し、苦しんだ末に自殺する女性も多いという。またイスラム教は同性愛とトランスジェンダーも禁じる。これらをテーマにした報告からは、宗教の大きな影響力下での人権侵害の深刻さが知られた。欧米でも物議をかもし Conversion Therapy の報告も複数あった。

コタバルが開催地となったいきさつは、USMがホストを引き受けたためで、マレーシアでも最も保守的な街だからあえて選ばれたのではないそうだ。とはいえ現地参加し、多々のカルチャーショックとともに、Sexual Justice の理念、大会テーマである Conversations on different perspectives の難しさと重要性を痛感できたのは意義深かった。ムスリム人口は世界で増え続け、今世紀後半には世界最大の宗教勢力になる。人類の性を考える上で、ムスリム達にとっての Sexual Justice は、きわめて肝要なテーマである。

## ■第16回アジア・オセアニア性科学連合国際会議報告② (The 16th Congress of Asia-Oceania Federation for Sexology)

# 日本の性教育に活かせる知見

性の健康イニシアチブ 柳田 正芳

### 参加者総数は 179 名

2022年8月19日～21日に、第16回アジア・オセアニア性科学連合国際会議(AOFS)が、マレーシアのマレー半島北東部に位置するクランタン州の州都クタバルにて開催された。会期中3日間の詳細な報告は現地にて参加された平山満紀先生の報告(p1～p8)にゆずり、私からは近年のアジア・オセアニア性科学連合(と性の健康世界学会=WAS)と、今回の学会で報告された事柄のうち日本での性教育の活動に活かしていけそうな話題をいくつか取り上げてみたい。

### 日本からの参加者

会場とオンラインのハイブリッドで開催された今回の大会は、会場で参加が106名、オンラインで参加が73名であり、参加総数は179名であったようだ。

日本からの参加者に限定すると、会場で参加が1名、オンラインで参加が10名という。

日本以外に参加者数の多かった主な国は、以下の通り。

- ・インド：14名(会場参加10名+オンライン4名)
- ・オーストラリア：4名(会場参加2名+オンライン2名)
- ・インドネシア：3名(会場参加2名+オンライン1名)
- ・フィンランド：会場参加1名
- ・南アフリカ：会場参加1名
- ・韓国：オンライン1名

### Sexual Justiceワークショップ

第1日目に、「Sexual Justice Workshop」と題したセッションが行われた。

Justiceとは「正義」や「公平性」を意味する。日本語で正義というと、「正義のヒーローが悪の怪人をやっつける」ような場面を想像しがちだが、(悪の怪人をやっつけることにより)「物事が本来あるべき状態に治まる」ことが、Justiceという語句の意味するところである。つまり、Sexual Justiceとは「それぞれの人のその人らしさがそのままよいことを保証する」ことだと捉えることができる。

このセッションには6名の発表者が登壇した。アジアで活躍する方だけでなく、WASの理事でもあるインド出身のJeyarani Kamaraj氏や、南アフリカ出身のElna Rudolph氏(WAS現会長)や、フィンランド出身のTommi Paalanen氏らである。日本からも、WAS理事である早乙女智子氏が登壇した。

WASにおいて現在、Sexual Justice Initiative Committeeという委員会が立ち上がっており、Sexual Justiceの概念や定義を検討している。「それぞれの人のその人らしさがそのままよいことを保証する」という理念は、日本での性教育や性科学の活動を推進していく上でも極めて重要なものであると考えられ、今後の議論の行方にも注目していきたい。

### ユースクリニックに欠かせないもの

第3日目の最後のセッションで「マレーシアの若者のSRH(Sexual and Reproductive Health)サービス利用に影響を与える要因について」と題した報告が行われた。マレーシアの若者299名を対象にした全国調査の結果と、そこから見てきた事柄を共有する内容であった。セッションを視聴したセクソロジープロジェクトの金ハリム氏から聞いた話をまとめる。

発表から「性に関する話に対するマレーシア社会の

中でのタブー感」[若者世代における性に関する病気や健康の知識の量の少なさ]「SRH サービスを提供する施設は主に結婚した人だけが行く場所だと若者世代が捉えている（※日本において産婦人科を、高校生が行くところではなく、結婚した人・出産をする人のための場所として、若者世代が感じていることに似ている）」といった事柄が伝わってきて、日本と似た課題があることが伺えたようだ。

一方で「こうした情報は家族から聞きたい」といったマレーシアの若者の声もあり、家族との結びつきの強さや家族に性に関する情報提供を期待している点など、日本と異なると感じられる事実もあったという。

発表の結論として、

- ・ ユースクリニック（若者のためにあるクリニック）のような、SRH サービスを提供する施設に行くことを恥ずかしいと感じるなど、性に関する話題はまだマレーシアの文化においてセンシティブであることが伺えるが、これは性に対するタブー感からくるものと思われる
  - ・ 調査に回答した若者の三分の一は SRH サービスを提供する施設に行くことを心地よいと思っておらず（not feeling comfortable）、最も共通していた理由は「恥ずかしいから（Too shy/Embarrassed）」というものだった
- などが挙げられた。金ハリム氏はこの発表から以下のことを感じたという。
- ・ 日本で今、ユースクリニックの取り組みが広がっているが、タブー感を減らす取り組みを並行して行わなければ、利用率が低くなることが予想される
  - ・ 日本にユースクリニックができたとしても、利用率の低迷が目立つと、若者に特化した SRH サービスのニーズの認知を高める際にアドボカシーが困難になり、ユースクリニックの地理的・社会的広がりが生まれにくい。ユースに向けた SRH サービスの必要性を可視化するには利用率向上が極めて重要
  - ・ 利用率の向上には、若者世代がユースクリニックに足を運ぶまでに存在するハードルをどう取り除いて来てもらうか、学校を含む教育機関や自治体、多様な地域のコミュニティとの連携など、運営側の対策と連携に向けた取り組みが問われる

ユースに向けた SRH サービスの利用率向上には、若者の心理的アクセスのしやすさと（教育・社会）制

度的改善が鍵となるというマレーシアの調査研究の結論は、日本で性教育やユースクリニックの活動を行っていく上で重要な示唆に富むと感じられる。

## 国際学会に行こう

AOFS は性科学分野の国際学会のひとつであり、2年に一度開催されている。2012年には日本の島根県松江市でも第12回大会が行われた。

最近10年の開催歴を振り返ると、

- 2012年 第12回@島根県松江市
  - 2014年 第13回@オーストラリア・ブリスベン
  - 2016年 第14回@韓国・釜山
  - 2018年 第15回@インド・チェンナイ
  - 2020年 開催せず
  - 2022年 第16回@マレーシア・コタバル
- となる。

AOFSはその名の通りアジア・オセアニア地区の性科学の学術集会であるが、同じ年に、ヨーロッパ性科学学会やラテンアメリカ性科学学会など、他の地域の大会も開催されている。

同様に、性科学分野の別の国際学会に「WAS」がある。こちらでもまた2年に一度開催されており、最近10年の開催歴を振り返ると、

- 2013年 ブラジル・ポルトアレグレ
  - 2015年 シンガポール共和国・シンガポール
  - 2017年 チェコ共和国・プラハ
  - 2019年 メキシコ・メキシコシティ
  - 2021年 南アフリカ共和国・ケープタウン (COVID-19のため、オンライン開催)
- となる。

AOFS（アジア・オセアニア地域に住んでいる方が主たる参加者となる）と WAS（地域を問わず世界中から参加者が集まる）は隔年で開催され、どちらにも参加・関与している人も多くいる。

2023年の WAS はトルコで、2024年の AOFS はオーストラリアで開催が予定されている（いずれも時期未定）。どちらの学会も大変多くの気づきがあり、日本にいただけでは気付かない視点やヒントもたくさんもらえる。

語学の壁はあるが、ご興味のある方がいらっしゃればぜひご参加いただきたい。

# いつきの“ヒューマン・ビーイング”

## 人権について考える ①9

### 部落問題学習との出会い

#### 土肥いつき

京都の公立高校教員。24時間一人パレード状態のトランス女性。趣味の交流会運営で右往左往する日々を送っている。

もともとわたしが学校の教員になりたいと思ったきっかけは、子どもが好きとか、数学を教えたいとかではなく、職員室の中でコーヒー片手に談笑している教員の姿を見て「いいな」と思ったからです。なので、昔も今も、数学を教えるよりも雑談をしたいタイプです。数学を、それも数学が苦手な子に教える難しさと楽しさがわかるようになったのは、教員になってずいぶんたってからのことです。そんなわたしにとって、担任は教科以外の話ができる楽しい仕事でした。

はじめて担任になった年の6月、生まれてはじめての同和学習の時間がきました。2時間連続の同和学習で担任に与えられたテーマは「自分と人権問題の出会いを語れ」、これだけでした。当時のわたしは、その前年から隣保館学習会をはじめ、部落出身生徒と少しずつかわりができてきた頃でした。何を語ったのかは覚えていませんが、とにかく必死で2時間語り続けたことは覚えています。それ以降、わたしは同和学習の時間だけでなく、普段のショートホームルームや授業の時間も使って、さまざまな人権課題について生徒に語りました。そのなかでも最も多くの時間を使ったのは、やはり部落差別についてでした。

部落問題学習の教材はたくさんあります。例えば、就職差別はそのひとつです。差別ゆえに安定した企業に就職できず、貧困な状況に置かれ、それが子世代の低学力を生み、結果として安定した企業への就職を阻まれるという形で差別が再生産される状況が長く続いていました。しかし、1960年代に生徒が就職差別を受けたことが顕在化し、それと教員が闘う中で、統一応募用紙が作られ、能力・適性に関係ないことは「言わない・書かない・提出しない」というとりくみがはじまりました。わたしはそんな歴史を話すとともに「例えば、面接の時に『自分の家庭環境は話しても大丈夫』といって話したら、それは『話せない』生徒を差別することにつながる。話さないことが『話せない』友だちを守ることになるんや」と語りました。

あるいは前号でも少しとりあげた結婚差別にもとり

くみました。例えば生徒たちに『もしも自分が部落の人と結婚するとしたらどう思う?』とさりげなく保護者と話をしておいで』という宿題を出したことがありました。さまざまな保護者の意見を読みながら、決して結婚差別は遠い話ではないこと、そして結婚差別に直面した時、どういう態度をとるのかを、みんなで考えました。このようにして、生徒たちに自らは差別と闘う主体であるということを伝えてきました。

また、こうした差別の実態だけでなく、なぜ部落差別が存在するのかということ伝えるために、数学の教員でありながら部落の歴史も教えました。

当時、部落差別の起源については「近世政治起源説」が主流でした。これは、江戸幕府が「士農工商」という身分をつくって分裂支配をおこない、被差別身分はそれらの不満のはげ口、いわば沈め石としてつくられたというものです。そして、現在も残る部落差別は封建遺制の残滓とされました。と同時に、政治権力によってつくられた差別や貧困は、政治の力によって解決できるとされました。ただ、このような歴史観をそのまま伝えた場合、生徒たちは自分とは関係ないと考えてしまいます。だからこそ、差別の現実や、差別との闘いを力を込めて話したのです。

ある卒業生から「先生は、なんであんなに同和学習に力を入れてたんや?」と聞かれたことがありました。それに対して、こんなやりとりをしました。「お前、〇〇さんが部落やって知ってるやろ」「知ってる」「もしも自分が部落を差別するかしらないかという場面に直面した時に、〇〇さんの顔が浮かぶやろ」「うん」「そしたら、差別できひんやろ」「うん」「そのためや」。その卒業生は「なるほど」と納得してくれました。

やがてわたしは担任という立場から同和教育担当、あるいは人権教育担当という立場になりました。専門的に部落差別や、他の人権課題について学ぶ中で、それまでの自分のとりくみを捉え直すようになりました。その中身や、現在おこなっている部落問題学習について、次号で書こうと思います。

多様な性  
のゆくえ

One side/No side [66]

## 最初に動きだした人たち

1981年6月にエイズの公式症例が米国で初めて報告された当時、謎の病気に対し、いち早く行動を起こしたのはニューヨークのゲイコミュニティだった。8月にはワシントン広場のすぐ北にあるラリー・クレマー氏のアパートに感染症の専門医を招き、「ゲイのがん」について話を聞いた。それがきっかけとなって生まれた全米最古にして最大のエイズ患者支援組織は翌1982年1月、ゲイメンズ・ヘルス・クライシス(GMHC)と名付けられている。

発足時のGMHCの活動方針は『病気について情報を集め、人びとを教育する』『病気にかかった人の世話をする』『この病気を社会に伝え、政治家や医師の注意を呼び起こす』の3点だった。謎の奇病がAIDSと命名される半年も前のことだ。

ニューヨーク駐在の記者だった1994年4月、私はマンハッタンのGMHC本部ビルを取材で訪れたことがある。6月にはストーンウォール暴動25周年を記念して、国連本部前からセントラルパークまで、主催者発表100万人という大規模行進が行われた年である。GMHCスタッフのパトリック・ガイルズ氏は「この方針は今も変わっていない」と語っていた。

エイズはゲイ男性だけがかかるわけではない。このことはすぐに明らかになり、1983年には病原ウイルスも見つかっている。GMHCの支援対象もゲイ男性に限定されているわけではない。

「それなのに、どうして組織の名称を変えないのですか？」と質問すると、ガイルズ氏はこう答えた。

「少数のゲイ男性が最初に動いた。この事実は大切にしたい。問題があるとしたら、名前ではなく、我々の名前が問題になる状況の方ではないか」

そんなことを思い出しながらGMHCの公式サイトにアクセスした。今年8月下旬のことだ。真っ先に出てきたのは「Monkeypox: Be Aware, But Don't Panic (サル痘に注意、ただしパニックにならないように)」の文字。ニューヨークのゲイコミュニティは、いま、エイズやコロナのパンデミックとともに、もう

一つの大きな健康の危機に直面している。

サル痘は天然痘によく似たウイルス感染症で、流行はこれまでアフリカにほぼ限定されていた。ところが今年5月以降、欧米を中心に世界各地で症例が報告されるようになった。

世界保健機関(WHO)は6月23日、この感染拡大が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」(PHEIC)にあたるのかどうかを検討する緊急専門家委員会を開催した。この時は結論が出なかったものの、1カ月後の7月23日に再び委員会を開き、サル痘の流行をPHEICと宣言した。

日本では宣言が出された2日後に国内初症例が確認されている。社会全体としてみれば、少し話題になった程度だったが、国内でエイズ対策に長く取り組んできたNPOは宣言や国内初症例の確認以前から、行動を起こしていた。エイズ流行初期の教訓が生かされた事例として注目したい。

認定NPO法人ぶれいす東京は、6月4日に3人の専門医を招いて学習会『知っておこう「サル痘」』をオンライン開催し、公式サイトにはそのアーカイブ動画も公開されている。

学習会の司会を担当した生島嗣代表は後日、スタッフ日記に『サル痘について』を掲載し、アーカイブ動画と合わせて、厚生労働省や国立感染症研究所、報道機関などのサル痘関連情報を紹介している<sup>(注1)</sup>。

東京・新宿二丁目のコミュニティセンター akta は7月5日、公式サイトに『サル痘のきほんの情報β—サル痘について知っておきたいこと』を開設した<sup>(注2)</sup>。

《HIVや性感染症の対策に取り組んできた支援団体や全国のコミュニティセンター、予防啓発団体は、現在、厚生労働省や国の関連機関、医療機関などとサル痘について、意見交換や連携》を進めているという。最も影響を受けているコミュニティが最初に動く。これもエイズ対策の蓄積とネットワークがなければ、生まれなかった動きだろう。成果を期待したい。

(注1) <https://ptokyo.org/blog/post/15079>

(注2) <https://akta.jp/information/4181/>

# BOOK GUIDE

## 今月のブックガイド

### もっと射精教育を！

聖隷浜松病院リプロダクションセンター長であり泌尿器科専門医である今井伸氏が満を持して出版した本書は、9月14日の発売後、即重版、売れ行き絶好調の様相。読者の中にも、もう手に入れて読まれた方が多いかもしれない。が、もしかしたら出版情報を逃していたり、自身や性教育を行う対象が女性だから……というような理由で買っていなかったりする人もいる可能性があるのでは、声を大にして言います。性教育に興味のある人は女性も男性も必読！

さて、武士道になぞらえた今井氏の「射精道」を私が初めて知ったのは、2016年のことだった。某団体の機関誌編集員として今井氏に思春期男子向けの執筆を依頼し、寄せられた原稿の中に「射精道」がしたためられていた。本書でも繰り返し語られる「射精は1日にしてならず」という教えもその時に初めて読み、揺るぎない説得力に感銘を受けた。

正直に申し上げます、機関誌というものは発行してもそれほど反響があるものではない（団体にもよると言えます）。しかし、今井氏の原稿を掲載した号を発行した後は、いろいろな人から「射精道の原稿面白かったよ！」と声をかけられた記憶がある。それは、「射精道」そのものが画期的であるのに加え、文章中に散りばめられた教養、科学的なデータをきちんと押さえながら自身の経験も惜しみなく例に出して話を進める技術等、今井氏の類い希な執筆力によるものだと思う。とにかく面白くてどんどん読んでしまうのだ。

本書でももちろん、その執筆力は健在。全編を通して語られているのは射精の大切さ、マスターベーションの奨め、性に向き合うにあたっては高い道徳観・倫理観が必要であること、なのだが、時々ふいに綴られる思春期・青年期の今井氏の思い出が、性に真面目す



### 射精道

今井 伸 著  
光文社新書  
定価 968 円（税込）

ぎるがゆえに滑稽で（失礼だったらごめんなさい！）、何度か吹き出してしまった。

オナニーの処理をしたティッシュでゴミ箱がいっぱいになるのを防ぐために五右衛門風呂でせっせと大量のティッシュを燃やしたり、お小遣いの全てをHなアニメ本に費やしたにもかかわらず現実の恋愛と天秤にかけて考えた結果全て処分したりする今井少年も面白いし、コバルト文庫をたくさん読むことで女性の心理を知ろうとし、「コバルト文庫でたっぷり勉強したおかげで多少自信がつき、深海から浮上して女の子との恋愛に向けた会話ができるようになりました」と大真面目に振り返る現在の今井氏も面白すぎます。

思春期編、青年期編は、面白エピソードも多く、軽快に読み進むのだが、妊活編、中高年編と進むにつれ、すれ違う男女の思いやセックスレス、病気、射精障害等、些か重いテーマの話題も増えてくる。だが、どれも性的な人生を送るにあたって知っておかなければならない内容ばかりだ。

全体の構成は、第6章までが「射精道」で、第7章は性教育の歴史、第8章は陰茎のメンテナンスについて、ラスト第9章は「女性と射精道——射精道は男子だけのものにあらず」となっている。「女性と射精道」の章は10ページとごく短いのだが、それは、ここまで男性向けに語られてきた射精道は実は女性にも当てはまり、「さらに言うなら、性生活を営む全ての人の思想」だからだ。

女性も含めた人間の、性的な人生の始まりから終わりまで覚えておくべき教えと知識が網羅されており、ここまで濃厚な内容をよくぞコンパクトな新書にまとめたな……と、読後は暫し呆然としてしまったのだが、女性にとっても射精道、射精教育が重要であると説く今井氏に大賛成。特に中高生には、学校でもっと射精教育を行ってほしい。

（日本性科学連合事務局長 今福貴子）



## SEE 性教育アカデミー2022

SEE (Sexuality Education & Empowerment) 主催

### 性と対人関係について語る 安全な場づくり

～SARにつなげるネットワーキングスキル～

対面研修

定員20名

【日 時】2022年11月5日(土)

10時から16時30分

【場 所】大阪公立大学 I-Site なんば C-1  
(大阪市浪速区敷津東二丁目1番41号)

【参加費】8000円(資料代含む)

SAR (Sexual Attitude Reassessment) とは、性に関する教育や支援に関わる人が、「性に関する自己の価値・態度」と向き合い、再構築するための研修プログラムです。性に対する内容は、不快さや不調、葛藤を生じさせるトリガーとなりうる刺激が含まれることが多いものです。だからこそ、性と対人関係を扱う支援者には、SARのような自己覚知を目的とした研修が必要であり、学び合いのための安全な場づくりや適切な課題を選定するスキルも研修を行う際には欠かせない資質となります。

今回のSEE性教育アカデミーでは、昨年度に引き続き藤岡淳子先生をお招きして、性と対人関係について語る際に必要な「安全で対等な場づくりとグループの対話を深めるためのファシリテートスキル」を学びます！参加者同士の対話のプロセスを通じて、個人の成長はもちろんのこと、専門的スキルと対人スキルを向上させる機会になると考えています。是非一緒に語り合いましょう。

#### スケジュール

9:45-10:00 受付(10:00-10:05 主催者挨拶)

10:05-12:00 講義&ワーク:安全な場づくり(藤岡)

12:00-13:00 お昼休憩

13:00-14:00 支援者への影響(野坂・吉田)

14:10-15:30 解説&SAR体験(東)

15:40-16:30 ふりかえり

#### お申し込み方法(要事前予約)

1) peatixでクレジット払い

<https://see-sgft.peatix.com> を Peatix で検索し、申し込みと支払いを完了してください。

2) 口座振り込み

事務局宛(kansaishy@gmail.com)に件名(タイトル)に「11月5日申し込み」、本文に、「1.お名前、2.ご所属、3.連絡先(メールアドレス)」をご記入ください。口座振り込み情報を返信します。

#### 講師プロフィール

##### 藤岡淳子

大阪大学大学院名誉教授、臨床心理士/公認心理師。児童相談所、児童自立支援施設、刑務所などで、非行や犯罪行動のある少年と成人の教育プログラムの実施およびスーパーバイザーを行う。一般社団法人もふもふネット代表理事。

##### 東 優子

大阪公立大学大学院人間社会システム科学研究科教授。ハワイ大学大学院で性科学とソーシャルワークを学び、大学(教育福祉学類)では社会福祉士養成課程を担当。GID学会理事。日本性教育協会(JASE)運営委員。

##### 野坂祐子

大阪大学大学院人間科学研究科・准教授、臨床心理士/公認心理師。学校や児童福祉領域での性的問題に関する臨床・研究を行う。児童相談所や刑務所での治療教育に関するスーパーバイザー。日本性教育協会(JASE)運営委員。JSTSS学会理事。

##### 吉田博美

駒澤大学学生支援センター・常勤カウンセラー、臨床心理士/公認心理師。性暴力・性的虐待被害者の心理療法が専門。米国ペンシルバニア大学不安障害治療研究センター認定Prolonged Exposure Therapyスーパーバイザー/セラピスト。



協賛：JASE(日本性教育協会) 共催：大阪公立大学女性学研究センター

▶▶ 11月12日(土) 14:00～15:10 ライブ配信【Zoom ウェビナー・無料】◀◀

令和4年度 配偶者暴力(DV)防止講演会

## 配偶者暴力(DV)に気づく、支援につなげる ～暴力を許さない私たちにできること～

### 講師

藤森 和美 (武蔵野大学人間科学部教授、公認心理師、臨床心理士)

心の傷(トラウマ)をうける体験は、自然災害のほか、いじめや性的被害、家庭の不和、虐待など、子供たちの生活の中に潜んでいることを提唱し、予防的教育啓発活動、臨床ならびに実証的研究に取り組んでいる。

東京都男女平等参画審議会 配偶者暴力対策部会部会長。

著書に『子どものトラウマと心のケア』、編著に『子どもへの性暴力—その理解と支援』、『被害者のトラウマとその支援』(誠信書房)など多数。

### 申込み・問合せ先等

日時・受講料/ライブ配信 (Zoom ウェビナー) 11月12日(土)14:00～15:10

録画上映 11月20日(日)14:00～15:10 東京ウィメンズプラザ視聴覚室 (1F) 定員 50名

託児あり (6か月から就学前まで、11月1日までに要事前申込み)

いずれも無料

対象・締切/だれでも視聴可能

ライブ配信・申込締切 11月7日(月)

録画上映・申込締切 11月14日(月) 託児あり (6か月から就学前まで、11月1日までに要事前申込み)

申込み・問合せ先など詳細は <https://www.twp.metro.tokyo.lg.jp/seminar/tabid/437/Default.aspx>

主催/東京都生活文化スポーツ局 東京ウィメンズプラザ



## JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

### 資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約6万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

【閲覧】必ず事前に電話で予約が必要です (tel 03-6801-9307)。貸出業務は行っていません。

【開室日・時間】 しばらくの間、月～金曜日 11:30～16:30

【休室日】 土・日曜日、祝日、年末年始 ※この他、会議等で臨時に休室することがあります。

【コピーサービス】 コピー料金は用紙サイズにかかわらず1枚10円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。

<https://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html>

### 資料室 利用方法

### 収集文献 ・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー (自然科学系、人文・社会学系)、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際 (海外団体資料・海外学術誌)、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイヤモンド文庫、ほか。

<https://www.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi>

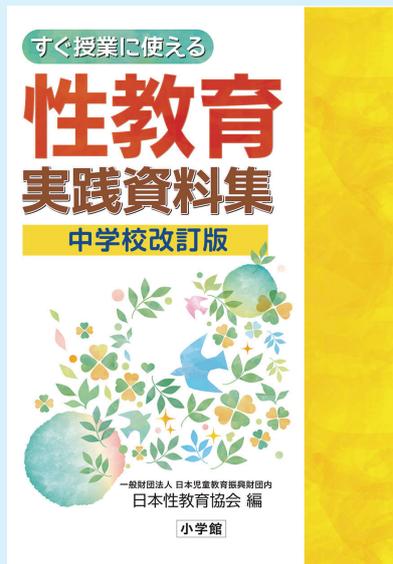
すぐ授業に使える

# 性教育実践資料集

## 中学校改訂版

〈主な内容〉

- 第1章 中学校における性教育（性教育を実践するにあたって／性教育の目的と意義）
- 第2章 性教育の実践（性教育の現状と実践の課題／学習指導要領における性教育の取り扱い／性教育の指導体制／指導計画の作成／性教育実施上の留意点／家庭・地域との連携／中学校の性教育の今後に向けて）
- 第3章 指導事例（各学年における指導計画と指導の流れ／8つの1年生の指導事例／6つの2年生の指導事例／6つの3年生の指導事例／7つの個別指導事例／5つの組織の指導事例）
- 第4章 参考資料（性行動経験率／性的なことへの関心割合／自慰経験率／性的関心の経験割合の推移／性へのイメージ／性感染症報告数の推移／梅毒患者報告数の推移／HIV・エイズ感染者の動向／人工妊娠中絶実施率及び推移／用語解説）



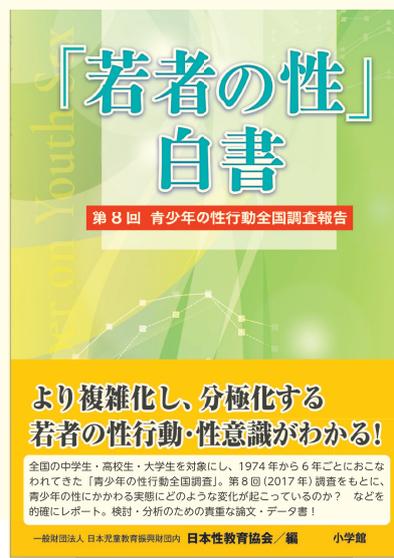
定価 2,200 円（税込） B5 判・224 ページ

# 「若者の性」白書

## 第8回 青少年の性行動全国調査報告

〈主な内容〉

- 序章 第8回「青少年の性行動全国調査」の概要
- 第1章 変化する性行動の発達プロセスと青少年層の分極化
- 第2章 青少年の性規範・性意識からみる分極化現象
- 第3章 家庭環境や親子のかかわりの違いは青少年の性行動に影響を与えるか
- 第4章 知識・態度・行動の観点からみた性教育の現状と今後の課題
- 第5章 青少年の性行動と所属集団の性行動規範
- 第6章 青少年の避妊行動の実態と包括的性教育の可能性
- 第7章 性的被害と親密性からの／への逃避
- 第8章 青少年の性についての悩み  
～自由記述欄への回答からみえるもの～



定価 2,420 円（税込） A5 判・256 ページ

編／一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会 発行／小学館

全国の書店にて、ご購入いただけます！